

第 57 回 番組審議会議事録

1. 開催日時 令和 5 年 4 月 5 日 午後 3 時から
2. 開催場所 よこてイースト 会議室
3. 委員出席
委員総数 5 名
出席委員数 5 名
欠席委員 0 名

出席委員	岡部 えり子	委員長
	佐々木 隆一	副委員長
	土田 百合子	委員
	辻 正憲	委員
	江畑 譲	委員

◎横手コミュニティ FM 放送株式会社

出席者 4 名

高橋 雅博	支援室長
小笠原 豊	放送局長
斎藤 晋平	支援室
細川 正実	営業部／番組審議会事務局

1. (1) 4月課題審議 審議番組

「Seiryō 知っトク RADIO」(令和4年10月19日/26日放送)

(2) その他

2. 審議事項

(1) ①審議番組 「Seiryō 知っトク RADIO」について

- ・関係者以外は知らない・行く機会がほとんどないということ、どのような学校か知らない現状で、少子高齢化が進んで、中高一貫校の元気な声を聴くことができ、大変うれしく思うし元気をいただいた。
- ・どのような経緯で番組が作られたのか、他の学校でもやれるのかが気になった。
- ・5分という尺がすごくいい。どうしても民間企業で尺が長くせざるをえないという事情もわかるが、ラジオという身近な媒体で短く聴けるといい。
- ・SNS やスマホを使ったいろんなメディアがある中で、やはり今の学生は自分たちをいかに伝えるかが上手。
- ・内容が明確だと感じた。中学生が伝えたい他の中学校にはない清陵学院中学校での活動、モノづくりであったり、グローバルコミュニケーションであったり、しっかり5分のなかで的確に話をしているなあと感じた。
- ・高校生について伝えたいのは、卒業後の進路についてだと思う。中高一貫校なので中学校に入ったとしても最終的なゴールは高校卒業なので、そこを話していた部分と、声優さんが出てきて、進路が多岐に渡っているのもインパクトがあった。
- ・今どきの高校生はいつも東京弁。普段からなのでしょうか？原稿を読んでいる感じがまったく感じられなくてよかった。
- ・シリーズや記念で作られたのか、背景が知りたい。
- ・名前しか知らない中高一貫校の一部でも知れてよかった。グローバルコミュニケーションや、メカトロ部など科目や部活など他の学校とはかなり違うと感じた。
- ・番組の制作にあたって、進行や構成にFMからはどの程度の干渉があったのか？
- ・中学生、高校生がそれぞれ番組を担当してましたが、どちらの内容もとても充実していて良かった。さらに高校生は、放送部の方もいて、話し方もとても上手だった。
- ・卒業生の声優の方にもコメントをいただくことにより、番組自体のレベル感が高くなった。

《会社側からの回答》

- ・校長先生から少子化が進んでいるができるだけ学校に入ってもらいたいとの相談を受け、こちらのスタッフを使うより実際にここにいる生徒や関係者の声の方が聴いてもらえるのではないかという旨のご提案をさせていただいた。
- ・番組を構成するうえでは、多少助言は行った。
- ・たまたま、別件で来ていた声優さんにもご協力いただいた。
- ・今後は予算の関係で未定。これまで他の学校はBOEチャンネルという番組で紹介していたが、清陵に関しては県立のためできていなかった。
- ・今後も学校に限らずこの短いセンテンスのものを作っていきたい。

(委員) これを聴いて他の学校から「うち(の高校)も」という声はありますか？

- ・今のところはないです。

(委員) 地域貢献を目的としたサスプロでは考えにくい？

直接お金を出しにくい学校に代わって、卒業生などの諸先輩などをスポンサーにするのはどうか。

- ・横手高校の旧校舎特番では卒業生をスポンサーとした。

(2) その他番組への意見

- ・懐かしの校歌が非常に良い番組というお電話をいただいた。

- ・空き家に残された猫の野良猫化について、県に飼っている方への意識改革としての CM 提案をしてはどうか？

- ・～しながら聴くことができるというのがラジオの魅力で、一度耳を奪われるとそれ以降ずっと聴いているひともいる。

《会社側からの回答》

- ・校歌の収集・放送は今後も行っていきたい。